

□議員名：河野朋子

1 自治基本条例について

論点	そもそも、自治基本条例は何のために制定されたのか。
回答	市政運営の最も尊重すべき規範として、自治の基本理念等を定める重要な条例で、市民は市の特性を生かしながら、協働して市民が主役のまちづくりに努めるということで、協働して市民が主役のまちづくりを進めていくことが主な目的だ。

論点	この条例の理念や条例に基づいた業務の進め方について、この5年間職員にどのように徹底してきたのか。
回答	制定当初は、職員に意識の徹底をした。条例規則については、この条例を規範としながら進めるようにしている。例規審議会等々においても、条例の改正や制定する場合に、この基本理念を十分承知しながらつくっている。

論点	今回の見直しに当たって審議会が開かれ、答申が出されたが、それを受けて今後のスケジュールはどうか。
回答	庁内で検討を行い、条例改正の素案を今から作成し、その後、パブリックコメントの手続を経て、出された意見を考慮した上で、最終的な条例改正案を作成し、市議会に一部改正条例を議案として提出する。

論点	自治基本条例の理念を職員に周知徹底することは重要だと認識しているようだが、具体的にどのような方策を考えているのか。
回答	今回の改正を機に、こういう条例があり、こういった意識のもと、職員はやっていかなければいけないということを、勉強会をもう一回開催して、周知徹底しようと考えている。

論点	第11条「市長は政策公約を公表し、その達成状況を公表する」とあるが、実施していると言えないのではないか。
回答	市長がその総合計画におさまる範囲で市民への約束、マニフェスト

	を市民との間で交わすと。基本的には、総合計画があればその範囲で、総合計画の全ての分野にわたって精一杯努力していくというのが、市長のあるべき姿勢だろうと思う。
--	--------------------------------------------------------------------------------

論点	第16条「計画段階から実施までの経過を市民に分かりやすく説明する責任がある」で、理科大の件について市民への説明はどうか。
回答	山口東京理科大学の公立化及び薬学部設置に関しての市民説明会については、1月10日から2月21日までの間、市内各公民館12カ所で行う。

2 事業評価について

論点	基本的な問題だが、そもそも事務事業評価シートは何のために作成するのか。
回答	事業について活動指標または成果指標を確認し、妥当性、有効性、効率性の各評価項目について検証し、課題や今後の方向性、改善時期等をあわせて記載するシートで、市民に対してきちんと説明できるようにするために作成するものである。

論点	現在、市のホームページには平成26年度までシートは公表されているが、27年度のはまだ公表されていないのはなぜか。
回答	シートは9月の決算資料として提出をしているが、決算委員会等で指摘のあった内容について再度修正し、各課から再提出をした後、総合計画の施策体系についても一度点検をするため、時間がかかっている。1月末には公表したい。

論点	800近い事業すべてについて、シートを作成する必要があるのか疑問があるが、今後の方向性はどうか。
回答	シートの作成については、仕分けをし直して、わかりやすいような形にまとめていきたい。最終的には、財務会計との連動も考えている。負担をかけずに、なおかつ施策がわかりやすい、明確化しやすいということを企画サイドでは考えている。

論点	事業評価の原点に帰れば、事業分析の項目に重きを置いたシートに改善すべきと思うがどうか。
回答	シートをチェック欄、PDCAのC、この評価が次につなげるためには一番大事なところであるが、本市ではここは弱いというのは認識している。このチェック欄の内容については、見直しをしていきたいと考えている。